

京都スタディ・ツアーの報告

6月の京都スタディ・ツアーについて報告がありました。

・概要報告： 藤嶋さん

訪問先の手配や、現地での点呼誘導など、役員や運営委員たちが得意とする分野を担当して、ネット検索と突撃精神で進めたチームワークが今回のツアーの成功の秘訣でした。今回は事前の下見を行いませんでしたが、余裕のある旅程を組んでいたのほぼ予定どおりに移動ができ、経費の軽減にもつながりました。

・寺院建築の用語解説： 佐々木さん

建築に詳しい佐々木さんから、西本願寺や東寺で見聞きした「唐破風」「入母屋造り」「書院造り」などの用語を解説してもらいました。

・会計報告： 福田さん

計画段階で不確定要素が多かったので参加費を少し高めに設定してありましたが、訪問先の変更や経費節減などにより、参加者一人当たり 1,000 円を返金し、残りは研究会の本会計へ繰り入れることになりました。



会報8号の補足説明

7月12日付けで会報第8号が発行されました。そこに掲載された各記事について、執筆者から補足がありました。

- ・「釈宗演伝」にみる原家との交流……廣島さん
- ・富岡製糸場と原合名会社……築比地さん
- ・「通天楼日記」と富岡製糸場の写真……速水さん

通天楼とは、明治の写真家・横山松三郎が上野に開業した写真館兼私塾です。2014年3月に刊行された『通天楼日記』を読み解きながら速水さんが調査したところ、これまで撮影者・撮影時期ともに不明とされてきた富岡製糸場の古写真（東京国立博物館所蔵）は、横山松三郎が明治6年1月に撮影したものであることが確認できたという研究成果が報告されました。